

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070502614
法人名	株式会社 さわやか倶楽部
事業所名	グループホーム ひかり
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区長野東町11番6号 (電 話) 093-474-6300

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年9月10日	評価確定日	平成20年10月9日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	7.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2～3階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000		その他の経費 (月額)	(水光熱費) 24,000円
敷 金	有 (200,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	9 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はやし内科・胃腸科クリニック／ふちがみ歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひかりは、小倉南区の交通の利便性が高く、緑豊かな自然に囲まれた環境の中に立地している。周囲には、高齢者福祉施設が多く立地している。この地域は昔からの農村地帯でもあり、農産物直売所で鮮度の高い野菜を購入でき、地域の住民とのふれあいを楽しむことができる。共用空間は、リビングから居室までが広い大きなフロアとなっており、貴山の風景が眺められ、開放的で清潔感溢れる空間となっている。入居者は季節の風景の移り変わりを楽しみながら、ゆったりと暮らしている。入居者と受け持ちの職員の写真が居室のドアに貼られ、清潔感のある居室を保つために職員が責任を持って担当している。個々の入居者の気持ちを全面的の受けとめ、職員は時間があると、入居者の希望をかなえようと入居者の思いや意向にそったケアやサービスの提供を目指し取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	各評価を通して日々のケアやサービス提供がなされているかを再確認している。今回、管理者と計画担当者のケアマネージャーが代わり、運営推進会議のあり方や介護計画の作成にあたり、センター方式を取り入れる等新たな視点で取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者とケアマネージャーが本年4月赴任である為、新鮮な気持ちで自己評価に取り組んでいる。次回からは職員全員で評価に取り組んでいきたいと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族が集まりやすい条件を第一に開催していたため、地域の方の参加が難しい状況にあった。今後は、多くの立場の異なった方々の幅広い意見をいただき、地域におけるグループホームのあり方を検討し、理解と支援を求めていきたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族・職員間のなじみの関係をつくり、いかなる要望や意見も聞き逃さないように支援している。ホーム前に道路が新設されることもあり、多くの問題が想定される。家族会や運営推進会議・面会時にできるだけ、今後の計画の全容を公開し、入居者の安全確保など検討をお願いしたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	校区まちづくり協議会に加入し地域活動に参加している。地域行事の文化祭・盆踊り等に参加したり、農産物直売所で農家の方と接したり、地域の方々とのふれあう機会を持つよう支援している。今後は、地域との交流を高める一環として、子ども達とのふれあいの場を多く持ち、入居者との交流を高めていくことを計画している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく暮らすことを支えるケア」を具体的にイメージし、さわやか倶楽部の基本理念の「慈愛の心・尊厳を守る」を基本理念に掲げ、地域密着型サービスとしての意義を職員全員で検討している。	○	さわやか倶楽部の基本理念に更にグループホームひかりの運営理念を3項目「入居者様主体・生きがいのある生活のお手伝い・信頼しあえる関係」を掲げている。平成18年の法改正により、理念に地域密着型サービスの役割を果たすことが求められ、入居者が地域の中でその人らしく暮らし続ける為の具体的な地域との関係を示す内容を検討することが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼の際に理念を唱和し、全員で理念の理解を深め、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区まちづくり協議会に加入し地域活動に参加している。地域行事の文化祭・盆踊り等に参加したり、農産物直販所で農家の方と接したり、地域の方々とのふれあう機会を持つよう支援している。今後は、地域との交流を高める一環として、子ども達とのふれあいの場を多く持ち、入居者との交流を高めていくことを計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各評価を通して日々のケアやサービス提供がなされているかを再確認している。今回、管理者と計画担当者のケアマネージャーが代わり、運営推進会議のあり方や介護計画の作成にあたり、センター方式を取り入れる等新たな視点で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族が集まりやすい条件を第一に開催していたため、地域の方が難しい状況にあった。今後は、多くの立場の異なった方々に幅広い意見をいただき、地域におけるグループホームのあり方を検討し、理解と支援を求めていきたいと考えている。	○	運営推進会議に地域の方の参加が難しい状況がある。地域密着型サービスとして地域の方々への理解と協力を得る場としての活用が求められ、今後の運営推進会議の開催の工夫が求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が派遣する介護相談員を月2回受け入れている。また、市の担当課とは、必要に応じて相談できる関係を築いている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	市町村が開催する研修会やさわやか倶楽部としての社内研修に参加している。制度に関しては、家族にパンフレット等を用いて、説明やアドバイスができるように支援している。全職員が制度について理解できるように勉強会等で、そのようなケースが起こった場合の対応策を事例検討する等、職員への理解・浸透を期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	機関紙と共に連絡事項や預かり金台帳の写しを毎月、家族に送付している。また、体調の変化があれば、即電話連絡を行っている。家族も報告により安心を得ているとの声があるが、コミュニケーションツールとして、メール利用も希望があり、今後はホームページやブログの利用もできることを家族に伝えてほしい。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・職員間のなじみの関係をつくり、いかなる要望や意見も聞き逃さないように支援している。ホーム前に道路が新設されることもあり、多くの問題が想定される。家族会や運営推進会議・面会時にできるだけ、今後の計画の全容を公開し、入居者の安全確保など検討をお願いしたい。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は予測できるため、交代する時には、勤務状況を調整しながら、徐々に入居者とのなじみ関係を築きながら勤務できるように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、特に条件を決めず幅広い人材の登用を心がけている。ウチヤマグループの一員として、職員は個人の力を十分に発揮し資格取得や管理者への昇進もあり、意欲的に勤務できる状況にある。また、管理者は、個人的に職員の相談を受ける関係を大切にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動	法人の基本理念を通して職業倫理を指導している。職員の入居者への対応は自然体でありながら、その中にも個々の入居者への声がけやサービス提供の際の行為は入居者への敬意を払った丁寧なものであった。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○職員を育てる取り組み	職員のフロアリーダーを育て任せていくなど、人材育成を行っている。また、職員にはコミュニケーションの大切さを伝え、日々のケアの中で学んでいくように指導している。今後も職員のスキルアップを図るために、研修に力を入れていく方針である。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	○同業者との交流を通じた向上	年1回の北九州市が主催する森フォーラムに参加したり、小倉南区のグループホームの管理者の集まりが3ヶ月に1回あり、同業者間での情報交換を行っている。今後は、ホーム同士の交流を高め、地域への認知症の理解を育む活動等取り組むことが期待される。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、見学に来ていただき、実際に入居者の暮らしを見ていただく。それから生活相談を受けるように心がけている。お茶や食事の時間を兼ねて、共に時間を過ごし、入居者同士でなじみの関係を築くように工夫している。体験入居も支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、共に過ごす関わりを大切に、特に生活リハビリを第一に支援している。入居者のこれまでの暮らしの継続を考え、日々の暮らしの中で、智慧や役割を活かしていくことが求められる。	○	入居者の喜怒哀楽には生活歴や生育歴・その人の社会背景・時代背景が反映されている。人生の先輩として、多くの学びや示唆されるものを感じ取り、それらを暮らしの中で活かしていく取り組みが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さわやか倶楽部のグループホーム4ヶ所合同でセンター方式の勉強会を行っている。毎月、センター方式の状況報告を行っている。現在、取り組んでいる段階であるため、入居者の生い立ちや生活暦・気づき・関わりが少なく、今後の取り組みが期待される。		職員が入居者の昔の職名で声をかけられ、すぐ入居者から反応があったり対応に工夫がある。異常な言動にもきちんと分析され、なぜ、そのような言動なのかを理解し対応していた。このような事柄等を介護計画に反映していくと、職員間で情報の共有化ができ、日々のケアの中で活かしていくことができると考えられる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族に要望や意見・提案をうかがい介護計画に反映している。介護計画の行動計画が即、毎日の記録用紙と連結されており、日々の対応が計画にそったものとなっている。医療関係者とも連携を図り、往診や受診時に医師の意見を伺い、計画を作成している。しかし、生活歴や生育歴から、その人の社会背景・時代背景がアセスメントの中に見出せないため、その人らしさの情報が少し乏しくなっている。	○	現在、法人グループでセンター方式の勉強会を実施しているため、日々の入居者との関わりの中で、更に関わりを深め、センター方式の活用により、その人らしさのある介護計画を期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人・家族・管理者・介護職員と共に定期的に、また、体調の変化時に計画の見直しを行っている。モニタリングの際、評価の中で原因を探り、分析することが求められる。	○	計画の分析・評価の中に、一番身近な介護職員の意見がみられない。入居者自身の思いや希望・体調の変化等の情報を持っている職員の意見を反映できるようにチームで作り上げる介護計画の見直しが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接して同法人が運営する特定施設・デイサービスがあり、全体で誕生会を催したり、楽しみごとの機会が多い。また、近所の学生ボランティアや訪問マッサージを受け入れるなど、サービスの充実も図っている。移動コンビニにより、日常的な買い物ができる等、臨機応変に入居者の要望に応じられるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の健康管理に十分配慮し、かかりつけ医との連携を取っている。服薬の効用・副作用はきちんと整理されて服薬確認も行われている。医師往診時の記録が分からなかった。看護師の着任も検討中である。	○	看護師が職員として配置されていないため、医療機関との連携が求められ、往診時の記録が必要である。また、急変時のかかりつけ医との連絡や職員が一人の際の対応などの検討が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を重視し、必要に応じてカンファレンスを行っている。ホームや職員ができる関わり方の限界を話し合い、入居者・家族・入居者にとって最善の手段・方向性を判断している。適切な判断ができるように看護師の着任も検討している。入居の際、家族の方との話し合いを行い、家族の意向を確認し、ホームの考え方を伝える等検討が求められる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	どんな場合も「その人らしさ」を大切にしたい言葉がけや対応を重視して日々のケアを行っている。ファイル等、個人情報の記録も厳重に保管・管理されていた。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝・起床誘導は基本的に行わないなど、一人ひとりの意思を尊重し希望にそえるように務めている。日々の対応の中の、些細なエピソードの積み重ねが「その人らしさ」を物語っている。センター方式の採用により、その人らしい暮らしの実現が期待される。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人ができる事や手伝いは自由にお任せしている。季節の食事会でのそうめん流しや外食レクリエーションなど食事を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。透析通院の方もおり、食事に配慮し全量摂取ができるように食事メニューを工夫している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	支障が無い限り、本人の希望や意向に合わせて入浴を楽しんでいただけるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画に連結した生活リハビリの欄に役割・楽しみごとを記載している。ゴミ出し・掃除機かけ・洗濯物たたみ・テーブル拭き・花の水やり・草むしりなど、役割を担っていただいている。入居者間の人間関係において、長老役など役割ができており、なじみの暮らしを楽しんでおられた。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	小倉南区の利便性が高い環境にあるため、モールやサンリブなど大型ショッピングセンターが位置し、食材の購入や外食に利用している。また、散歩やゴミ出し・草花の水やりなど戸外への誘導を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に鍵をかけないケアに取り組んでいる。新しく入居された方がおられ、事故が予測される場合には玄関に鍵をかけている。極力、鍵をかけないケアを目標として取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に年2回消防署立会いのもとで消防訓練を行っている。また、随時夜間を想定した避難訓練を入居者と共に行っている。冬場の地域の見回り隊にも見回りの協力をいただいている。	○	近郊の高齢者福祉施設との非常時の連携も必要と考えられ、運営推進会議において、避難訓練の地域住民の参加を仰ぎ、具体的な支援体制について検討し、体制を整備することが求められる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事量は、毎回チェックしている。体重測定も定期的に行い、増減をわかりやすくする為一覧表に記入している。また、食事が取りにくい方には、処方された栄養缶を摂ってもらっている。法人の栄養士のチェックを期待したい。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	共用のリビングは清潔感に溢れ、清潔な空間と高い天井で過ごしやすい快適な空間となっている。採光がよく、広い窓からは、近くの山の緑がいっぱいで入居者の皆さんは居心地良さそうにくつろいでおられる。レクリエーションでのスナップ写真や絵画のコピー・読みやすい書が壁に飾っており、家庭的な環境となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	入居時に家族に本人の使い慣れた物や好みの物(テレビ・筆筒・椅子・テーブル等)が持ち込まれ、それぞれ個性的な居室となっている。居室の入口には本人と担当職員の笑顔の写真が貼られている。居室とリビングが一体化しており、どこにも死角がないので、居室でも安心して過ごすことができる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			